

印刷会社と
福祉作業所

八尾和紙でセット商品

おわらちぢぎりの絵に

富山市八尾町大杉の福祉作業所「ボランティアはうす風香」(林のぶ子代表)と、同市下奥井の中央印刷(吉田美恵子社長)は、八尾和紙を使ったちぎり絵セット「ひこぼし」を作った。おわらの踊り手をモチーフにした商品で、林代表は「だれでも簡単に作れる。作る喜び、飾る喜びを感じてほしい」と話している。

踊り手優雅に表現



おわらの踊り手をモチーフにしたちぎり絵、折り紙セットを開発した林代表(左)と中央印刷の宮口仁志さん

「風香」は障害者や高齢者が八尾和紙を使ったちぎり絵など、数多くの和紙民芸品を作っている。「作る人に優しい商品」をコンセプトに、風香のノウハウと、印刷会社ならではのアイデアを合わせて商品化することにした。

ちぎり絵用の八尾和紙と、踊り手の法被や浴衣などの輪郭が印刷された型紙、ちぎり絵を張る色紙をセットにした。まず、型紙の輪郭をカーボン紙で和紙に写し、線に沿って和紙を手でちぎる。最後に和紙を色紙に張り付ける。

色紙は井田川に架かる釣り橋を背景に、男女の踊り手が優雅に舞っている様子を表し、おわらの名歌「八尾四季」を載せた。

姉妹品として、八尾和紙を使った折り紙セット「おりひめ」も作った。両セットとも千八百九十円。八尾町の桂樹舎和紙文庫、神通川水辺プラザ「自然ふれあい学習館」などで販売している。

問い合わせは中央印刷、電話076(432)6572。